

# 多彩なイベント、文化行事。 好奇心は、創造力の源です。

君たちは何故大学をめざしているのですか？ 大学では何をしますか？ 河合塾では、勉強をアシストするだけでなく、もっと視野を拡げ、現代社会の様々な領域の“知”と出会えるよう、知的好奇心を刺激するための多彩なイベント・文化行事を開催しています。それぞれの場面で何を考えるか？ 河合塾は君たちが新たな自己と対面することを期待し、君たち自身が進む道の探求を応援します。

## 1993年度 エンリッチ講座プログラム（予定）

### ●最先端の研究

- |                                     |                               |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 高木 繁（名工大助教授）                        | 「化学から医学へのアプローチ」               |
| 斉藤和季（千葉大薬学部講師）                      | 「植物の遺伝子操作とその応用」               |
| 島 正子（国立科学博物館理工学第三研究室長）              | 「隕石と宇宙科学」                     |
| 馬淵久夫（作陽短期大学教授）                      | 「考古学における自然科学—遺跡の年代と青銅器の原料産地—」 |
| 野間口 真太郎（国際協力事業団専門家、パプア・ニューギニア森林研究所） | 「パプア・ニューギニアの海外青年協力隊」          |

### ●文 化

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 芦川進一（河合塾講師） & 中西光雄（河合塾講師） | 「日本文化のキーワード もののあわれと日本人」 |
| 黒川 創（評論家）                 | 「ビデオ&トーク アナロジーとしての風景」   |

### ●教 育

- |                |            |
|----------------|------------|
| 宮田光雄（東北大学名誉教授） | 「希望としての教育」 |
|----------------|------------|

### ●時事問題

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 近藤 孝（脳神経外科医）    | 「脳死・尊厳死・臓器移植」  |
| 高木仁三郎（原子力資料情報室） | 「プルトニウム問題について」 |

### ●環境問題シリーズ

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| 槌田 敦（理化学研究所研究員）                  | 「環境運動の現状と限界」             |
| 西ヶ谷信雄（全国都市清掃会議調査部長）              | 「廃棄物を考える—東京都のゴミに関わって18年」 |
| 村井吉敬（上智大学教員）                     | 「第三世界と日本」                |
| 佐藤真（監督）+ 飯塚俊男（監督）                | 「映画上映会&トーク」              |
| 『阿賀に生きる』+『小さな羽音…チョウセンアカシジミ蝶の舞う里』 |                          |

その他、下記のテーマなどで交渉中

- ・民族 ・日本の米 ・日本の先住民 ・記号論 ・勝負師 ・わだつみ会
- ・日本人の捉える英語 ・大道芸人 ・文学 ・国際貢献 ・からだことば

都合によりプログラムが変更になることがあります。  
なお、日時・場所については後日告知します。

# エンリッチ講座 プログラム

9月24日(金)

横浜校  
18:45~

## 考古学における自然科学—遺跡の年代と青銅器の原料産地—

講演者：馬淵久夫（作陽短期大学教授）

司会者：大川保博（物理科）

9月27日(月)

池袋校  
17:30~

## 近代における個人と恋愛—北村透谷から夏目漱石へ—

講演者：小森陽一（東京大学助教授）

司会者：菅 孝行（小論文科）

9月30日(木)

駒場校  
17:30~

## 世紀末を読む

講演者：鎌田 慧（ルポライター）

牧野 剛（現代文科）

司会者：松井道男（英語科）

9月30日(木)

横浜校  
17:30~

## 大道芸がやって来る—街頭と風俗がつくり出す文化の表情—

講演者：水野マサヒロ（西洋お手玉師）

司会者：武田 真（英語科）

10月6日(水)

松戸校  
17:00~

## ユーゴで何が起きているか—内戦の原因と国際干渉—

講演者：佐原徹哉（東京都立大学助手）

司会者：池田五律（小論文科）

10月14日(木)

池袋校  
17:30~

## プルトニウム問題の現在

講演者：高木仁三郎（原子力資料情報室）

司会者：環境問題研究会

吉野大作（漢文科） 三森一彦（漢文科）

### 予定

#### ● 政界再編を考える

講演者：浅井基文（明治学院大学教授）

#### ● 国際連合問題

講演者：北沢洋子（アジア太平洋資料センター共同代表）

#### ● パプア ニューギニアの自然と人間

講演者：野間口真太郎（佐賀大学助教授）

6月17日(木)  
大宮校 17:30~

槌田 敦

(物理学者)

司会

安藤紀典

(小論文講師)

## 「環境保護運動はどこが間違っているのか？」

### —環境問題の新しい見方—

地球環境問題を解決するためにやらなければならないことだと、これまで当たり前のよう  
に言われてきたことの中には、ずいぶん多くの嘘があります。万能薬のように言われてきた  
リサイクルにも限界はあります。場合によっては、リサイクル運動によって環境が悪化する  
ことだってあり得るのです。そのことを知ることによって、私たちは、環境問題について  
まったく新しい見方ができるようになるかもしれません。

もう一度きちんと、資源と環境の物理学者・槌田敦さんといっしょに、リサイクルやエコ  
ロジ運動、地球環境問題について、考えてみませんか。

槌田 敦 1933年東京生まれ。東京都立大学理学部卒業、東京大学大学院終了。理化学研究所研究員。槌田エントロピ  
(物理学者) ー理論で世界的に有名。「原発安全死のすすめ」学陽書房「エントロピーとエコロジー」ダイヤモンド社「資  
源物理学入門」NHKブックス「環境保護運動はどこが間違っているのか？」JICCほか。

# 93 エン リッ チ 講 座 環境問題 シリーズ

6月22日(火)  
横浜校 18:40~

## 「いま問われている 都市ゴミの実態」

### —リサイクルと社会経済システム—

最近日本でも使われるようになった企業市民という言葉が  
あります。その中で、日本の経団連あたりが一番警戒してい  
るのは、企業の廃棄物や環境に対する貢献度などを外部監査  
するという制度です。ドイツはEC統合への過程で国際裁判  
所に訴えましたが斥けられ、現在では包装紙や飲料容器に再  
利用を義務づけています。企業というのは金を儲けて税金を  
払えばいいのか、税金を払うほかに社会にどういう奉仕をす  
るのか、そこまで考えないと企業市民にはなれないのです。

人類は自然界に存在しないものを勝手に作り、使用し、廃  
棄しています。大量消費社会の象徴といってもよい東京都の  
清掃局で、現場を回ったり、住民折衝をやったりして18年。  
好評だった昨年の講演に引き続いて、西ヶ谷信雄さんと都市  
ゴミの実態について考えてみましょう。

西ヶ谷信雄 1933年東京生まれ。中央大学法学部卒業。東京都に入都。1970  
(全国都市清掃会議調査部長) 年東京都公害研究所広報係長、1973年杉並清掃工場建設促進本  
部建設促進担当副主幹。以来、昨年、都清掃局特定清掃事業事  
務所長を退職するまで、清掃局でゴミ行政に関わること18年。

西ヶ谷信雄

(全国都市清掃会議調査部長)

司会

環境問題研究会

吉野大作 (漢文科講師)

永島廉司 (漢文科講師)

三森一彦 (漢文科講師)

渡辺 修 (世界史科講師)

6月29日(火)  
千駄ヶ谷校 17:30~

村井吉敬

(上智大学教員)

司会

環境問題研究会

吉野大作 (漢文科講師)

永島廉司 (漢文科講師)

三森一彦 (漢文科講師)

渡辺 修 (世界史科講師)

## 「ギャルとマグロとODA: 東南アジアの島の暮らしから考える」

日本の私たちの暮らしを支えるモノはどこからくるのでしょうか。

東インドネシアの赤道下の小さな島々、コロンブスが500年前に香料を求め、航海に乗り出  
した島々。いま、人々はビデオで「おしん」を見ている。海ではトロール船がエビを採り、  
森から大木を伐採するチェーンソーの音が聞こえてきます。こうした人々の姿は私たちの日  
常からはなかなか見えません。大消費都市東京に住む私たちは、世界から送られてきたモノ  
を「ゴミ」、膨大な廃棄物として排出しています。

ロボットが働く黄金のフニ・ニッポンは、アジアの人びとからどのように見られているの  
でしょうか。村や海辺に住む小さな民の眼に映るニッポンの姿を見つめつつ、ODA(政  
府開発援助)やこれからの関係を考えてみましょう。

村井 吉敬 1943年千葉県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。東南アジア社会経済論専攻。現在上智大学外国語学部教  
(上智大学教員) 授、同アジア文化研究所所員。「誰のための援助?」共著、岩波ブックレット。「小さな民からの発想」時  
事通信社「スラウエシの海辺から」同文館ほか。

# 2001年地球の旅

講演者：関野 吉晴（探検家）

司 会：牧野 剛（国語科講師）

## 関野吉晴プロフィール

1949年 東京生まれ  
 1975年 一橋大学法学部卒業  
 1976年 一橋大学社会学部中退  
 1982年 横浜市立大学医学部卒業  
 1971年 一橋大学アマゾン全域踏査隊長として  
 アマゾン全流を下る。その後20年間に  
 わたって、中央アンデス、アマゾン源  
 流、パタゴニア、アタカマ高地、アルチ  
 プラーノ、ギアナ高地、オリノコ川を歩  
 く

### ◆写真集

「ギアナ高地」講談社

「ケロ、遙かなるインカの村」朝日新聞社

「アマゾン源流、インカの谷・未知の流れ」

日本テレビ

「南米大陸」朝日新聞社

「オリノコ、世界最古の森」講談社

### ◆著書

「ぐうたら原始行」山と溪谷社

「幻のインカ」立風書房

「ロビンソンクルーソーの生活技術」山と溪谷社

「わがアマゾン、トゥチャン一家と13年」

朝日新聞社

「キャッサバ文化と芋粥餅文化」柴田書店

「ネブリーナ山探検紀行」日本放送出版協会

人類は、400万年前、東アフリカに誕生したといわれている。百数十万年前、アフリカを飛びだし、ヨーロッパ、アジアに広がった。2～3万年前になりやっと60度以上の高緯度地方に進出するようになった。さらに極北の地に進出しアメリカ大陸に渡ったのがモンゴロイドだった。やがて南米大陸の最南端パタゴニアに達するにいたった。

人類が東アフリカに生まれ、南米大陸に広がる5万キロの大遠征は、壮大で画期的な出来事だった。アメリカの考古学者ブライアン・M・フェイガンはこの大遠征をGREAT JOURNEYと呼んでいる。この重要な旅は、コロンブスの航海をはるかに凌ぎ、人類がこれまで体験した中でも最大の冒険にランクされる。フランスの考古学者ボルドーはこの偉業は他の惑星系に人類が移住するまで再現することはあるまいと言っている。

私はこの大遠征を、土地の先住民と接触しながら、自分の脚力（徒歩、スキー、自転車）と腕力（カヤック）だけを頼りに、逆ルートで再現したいと思っている。

記録にチャレンジという気はない。むしろ寄り道をするために人類のたどった道程を辿ると言ったほうがよい。

その旅すから、ゴーギャンの絵のモチーフでもあった「私たちはどこから来たのか、私たちは何者なのか、私たちはどこへ行くのか」そして「人類にとって進歩とは何だったのか」を考えたい。期間は7年間余り、21世紀の初頭に人類発祥の地、オールドバイ渓谷に到着したいと思っている。

10月28日(木) 17:30～ 千駄ヶ谷校 東校舎 B21教室

1993夏

# KIMURA ATSUKI & THE BLUES GANG

MEMBER

木村 充 揮

(Vo, G.) 憂歌団

花岡 献 治

(B. Vo.) 憂歌団

有吉須美人

(P.) アリヨズシャッフ

河内 博

(G.) ゴールドラッシュ

氏 永 仁

(Dr.) サウスサイドシャッフ

ドクトル梅津

(Sax) ドクトル梅津バンド

■プラス

SPECIAL GUEST

激励  
コンサート

日時 7月20日(火)

会場 目黒区公会堂

15:30 開場

河合塾

## 「天使のダミ声」の魅力

アメリカの黒人の厳しい差別状況の中から生まれたブルースは、抑圧するものを跳ね返すエネルギーに充ちている。人の魂に直接訴えるそのブルースの魅力に取り憑かれ、ブルースの心を表現したミュージシャンは多い。ロックのエルヴィス・プレスリー、ビートルズ、ローリング・ストーンズ……etc。

木村充揮らの憂歌団は1972年にデビューした、当時19歳。それ以来、出身の関西を中心に活動して20年。日本のブルース界の第一線を疾走し、日本一ブルージーなバンドとして活躍し続けている。

年間100本というライブに足を運ぶ憂歌団のファンは幅広い。かつてタモリがオールナイトニッポンを担当していた頃、憂歌団の歌

をかけまくっていたことは有名なエピソードだ。また作家の景山民夫、レスラー前田日明らも熱心なファンである。「わかれのうた」「けむりが目にしみる」などのドラマ主題歌や「胸が痛い」など、テレビを通じて知られている曲も多い。昨年は原田芳雄/バンドとツアーを組み高い評価を得て話題となった。

21年目の今年、憂歌団のヴォーカル木村充揮はフリー活動も始めた。それが木村充揮 & ブルースギャングだ。メンバーにはジャズミュージシャンのドクトル梅津らが参加している。「ブルースがこんなにトンガってウエーブする激しい音楽だったとは……。」と早くも大変な反響を呼びつつある。「人間は一人一人が底知れぬ凄いパワーを自分の中に持っている。

ジャンルも年齢も国も関係なしに、歌を通じて人との出会いの中で、そのパワーを互いに感じ起こせばいい」と木村は言う。(『毎日グラフ』93・5・2)

河合塾大阪南校でも今夏、木村充揮らによるトーク&ライブ「在日韓国人の文化としての音楽」が実施される予定だ。それに先駆け、河合塾東京地区では激励コンサートを実施する。「神が与えたもうた天使のダミ声」と形容される木村のヴォーカルは飛び抜けて本物で、聴くものの心を震わせる。受験勉強に明け暮れる日常生活の中で、夏の一日、ブルースの世界にひたり、満喫し、自分の中に持っている底知れぬパワーを感じ取ってみよう。

## 木村充揮 (きむら・あつき)

1954年3月24日大阪生まれ、大阪市立工芸高校美術科卒業。同級生とともに1972年、日本語でブルースを歌う憂歌団を結成。21年目に憂歌団の活動と並行してソロ活動を開始。木

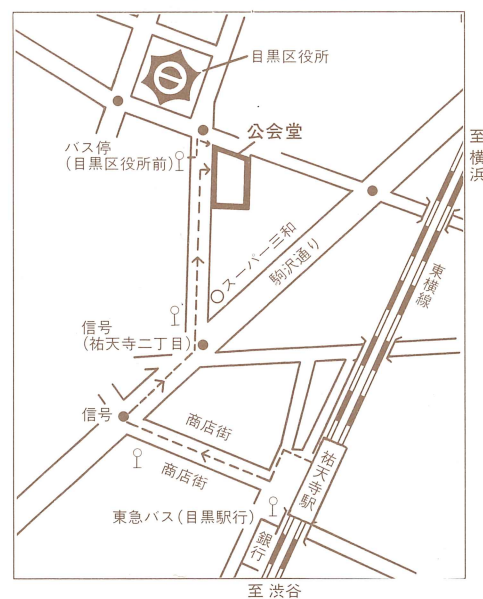
村充揮 & ブルースギャングというバンドも作る。さらに、チャーリー・ワッツ(ローリング・ストーンズ)との共演も実現する見通しといわれている。

## 参加申し込み方法

- 下記の申込書、入場券(全席自由)に必要な事項を記入して下さい。
- 申し込み場所—河合塾、各校舎教務課窓口。ただし、定員に達し次第締め切ります。
- 申し込み日時—**7月1日 12時45分より**
- 入場無料**—参加未定の申し込みはご遠慮下さい。  
止むをえず不参加の場合は速やかに教務課へ返却して下さい。

## 目黒区公会堂案内図

東横線 祐天寺駅下車 7分



## コンサート&amp;激励トーク《入場券》

## 河合塾

●塾生 中・高・大受( )クラス No.

整理番号

●単科ゼミ・講習会生 中・高・高卒 No.

氏名

キ リ ト リ

## コンサート&amp;激励トーク《参加申込書》

## 河合塾

●塾生 中・高・大受( )クラス No.

整理番号

●単科ゼミ・講習会生 中・高・高卒 No.

氏名

# 河合塾エンリッチ講座

= 環境問題シリーズ =

無料

## 豊かさのツケ

— 廃棄物の問題について —

・ 講演

西ヶ谷信雄

(前東京都清掃局 特定事業事務所所長)

・ 司会

環境問題研究会

吉野大作 (漢文科)

永島廉司 (漢文科)

三森一彦 (漢文科)

渡辺 修 (世界史科)

### 豊かさのツケ

ゴミと取り組む

>>3

#### 清掃マンの怒り



真新しいオモチャを拾い上げ、西ヶ谷所長はまた怒りの声を上げる

### ゴミと取り組む

「ゴミの処理、環境問題」は、最近、市民の関心を引くようになった。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。

「ゴミの処理、環境問題」は、最近、市民の関心を引くようになった。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。

「ゴミの処理、環境問題」は、最近、市民の関心を引くようになった。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。

「ゴミの処理、環境問題」は、最近、市民の関心を引くようになった。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。ゴミの処理、環境問題は、市民の生活と密接に関係している。

7月23日 (木) 17:30~  
千駄ヶ谷校本校舎 533教室